

■国連：福島原発の作業で被ばくによる死者はないと発表

国連の放射線影響を評価する科学委員会（UNSCEAR）は2012年5月23日、福島地震・津波災害から1年後の同災害の健康への影響評価に関する報告書をまとめつつあることを明らかにした。同報告書によると、福島第一原子力発電所の元作業員で災害がもとで亡くなった6名のうち放射線影響により死亡した者はおらず、また同発電所の作業員数名は皮膚に被ばくしたが、臨床的に観察される影響は見いだされていないとしている。UNSCEARのWolfgang Weiss議長は「同委員会は3月11日の同発電所事故時に福島県に住んでいた約200万人の被ばく線量レベルを評価することを目指しており、同地域に住む1,000人の子供達の甲状腺測定結果も併せて、2013年の国連総会に報告する予定である」と発表した。